

(兵庫県)  
(伊丹市)

学習塾の新時代を切り拓く、塾長歴10年未満の期待の星に聞く

# 私塾はもつと「型破り」たれ 若き僧侶が、閉塞した業界観に「喝!!」

「よく勉強しなさい」  
そう言い遣して、祖父は逝った

塾長はお坊さま。兵庫県伊丹市に、現役の僧侶が切り盛りする、異色の学習塾がある。そのことは自身も「ユースだが、目を惹くのはそれだけではない。この時世にあって、常に入塾希望者が絶えない人気教室なのだ」という。学習教室サクセス、塾長・岩田英証（三十五）。開業わずか数年でここまでの人気塾を作り上げた、彼の教育に対する土台とは何なのか。その原風景を訪ねてみた。

江戸時代から連綿と続く浄土真宗の古刹、淨福寺。岩田はその一〇代目として生まれた。両親・

父母ともに教師で、常に身近に「教育」が存在する環境。また、父・祖父は僧侶でもあったため、

娘は厳しいものの、愛情あふれる家庭だった。岩田も自然と教師を志したが、結果として塾人の道を選んだのは、彼の持つ資質の影響だろう。

少年・岩田は、仲間とともに町を駆け回るありふれた子どもたちだが、この頃から、ある突出した才覚を持っていた。「仕組み作り」の才能だ。

岩田が育った町には広い遊び場がない、野球などをするのもひと苦労。そんな時でも、「この広さなら、こんな基準でやるといいか」と、独自のルール・仕組みを次々とを編み出した。仲間たちは驚嘆し、遊ぶ時はいつもそのアイデアを頼ったという。岩田自身も、素直にそれが楽しかった。

大学に進み教職課程も履修したが、この頃には塾人への思いが強くなっていた。「学校よりも自由にアイデアが生かせる、塾をやりたい」と。

そんな折、それを決定付ける出来事が起こる。祖父が逝ったのだ。「よく勉強しなさい」、それは混濁する意識の中で、岩田に告げた最期の言葉。

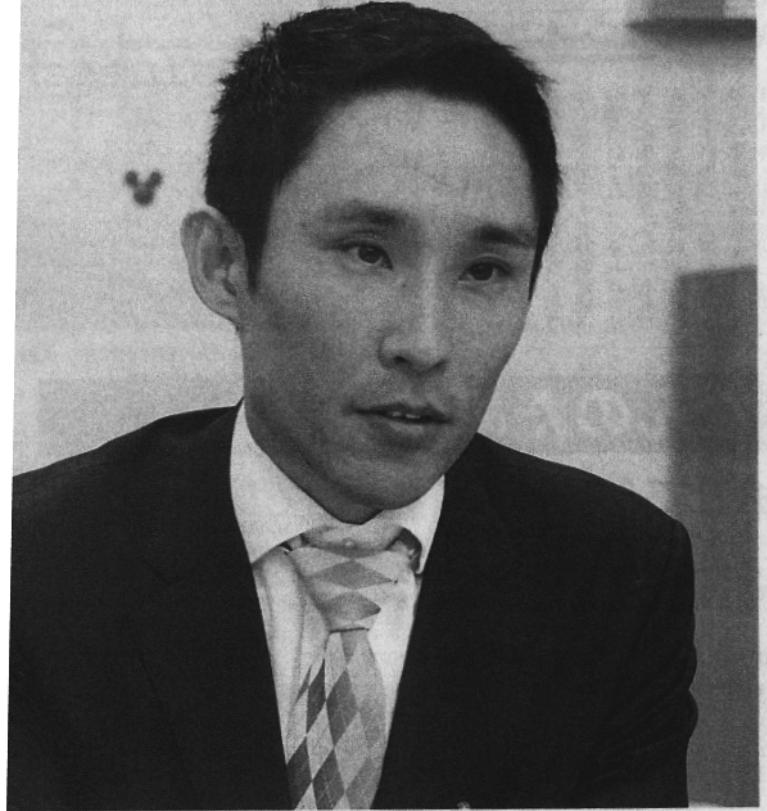


修業が氣付かせてくれた、  
為すべき仕事と  
「朝」が持つ超越的な集中力

修業は世俗から隔離された読経の日々。そんな

寺の跡取りとして生まれ、言わざ語らずで教師を目指した。しかし彼には、類まれな発想力があった。

それは「塾人になれ」という御仏の意思だったのかもしれない。やがて訪れた祖父の死、そして修業の日々。現役僧侶が目指した、塾の理想とは――



## ウチみたいな「変な塾」があってもいいじゃないですか(笑)

岩田 英証 HIDEAKI IWATA

1975年、兵庫県生まれ。伊丹市の「学習教室サクセス」塾長にして、浄土真宗本願寺派の現役僧侶・淨福寺副住職。僧侶修業時代に気付いた「朝」の脳が持つ力を学習に生かそうと、独自の「早朝特訓」を実施、確実な成果を上げてきた。その実績をもとに出版した書籍「試験前たった1週間の早朝学習で5教科100点アップする勉強法」も人気。

●「学習教室サクセス」WEBサイト  
<http://www.j-success.com>

●学習教室サクセス 塾長ブログ  
<http://g-k-success.at.webry.info/>



環境の中で祖父の人生に思いを馳せるうち「自分の持つ特性で世に貢献するには、やはり塾だ」という結論に至る。修業を終え、大学を卒業。大手塾に三年勤めたのち、早々と独立開業した。

また、早朝からの修業は、得意の「仕組み作り」にもヒントをくれた。それが、サクセス名物「早朝特訓」だ。朝の脳が持つ集中力を生かすため、

朝六時半から教室を開け、黙々と勉強に取り組ませている。最初は渋々だった生徒たちも、テストで結果が出ると進んで参加するようになつた。

生徒が勉強したくなる「仕組み」はまだある。ポイント制度が

その一例だ。「無遅刻・無欠席で学校へ通つた」「テストで自己最高点を更新」など、各種条件を満たすとポイントがたまり、景品と交換できる。他にも、保護者へのニユースレター、独自の学習計画表など、アイデアは無尽蔵。

「基本はアットホームな塾ですが、厳しさを忘れません」との話どおり、時には机を蹴飛ばして叱ることもある。不良グループの生徒たちを一日連續で教室に徹夜させ、カンヅメで勉強させたこともあった。それでも、結果が出れば彼らは信じてついて来てくれるのだ。岩田は言う。「たまには、ウチのような変な塾があつてもいいかなって(笑)。将来は、寺子屋みたいな塾をやりたいですね」。

ちなみに開業したての頃は「三ヶ月で成績が上がりなければ、全額返金します」とフチ上げたこともあったそうだ。返金請求の電話が鳴ることは、もちろん一度たりともなかつた。(敬称略)